

開会の辞



門多 丈（かどた たけし）

一般社団法人実践コーポレートガバナンス研究会 代表理事

1971年 三菱商事株式会社入社。グローバルな視点からの様々な資金調達・運用業務に携わる。金融事業本部長として、未公開企業の株式を含むあらゆるタイプの金融プロダクトへの投資業務、M&Aなどのアドバイザリー業務を統括。2007年に同社を退職後、株式会社カドタ・アンド・カンパニーを設立、代表取締役役に就任。株式会社八十二銀行社外監査役（現任）、GPSSホールディングス株式会社社外取締役（現任）、株式会社FPG社外取締役。名古屋外国語大学客員教授（現任）。米国カルパース等の有力公的年金で組織するPacific Pension Instituteの終身会員。1971年東京大学法学部卒、1981年 スタンフォード大経営大学院卒（MBA）。

司会： 本日はご多用のところ、実践コーポレートガバナンス研究会 10周年記念シンポジウム、「今実践すべきコーポレートガバナンスの課題 内部監査の制度化の先に見えるもの」にご参加賜りまして、誠にありがとうございます。

本日司会を務めます実践コーポレートガバナンス研究会理事の荒川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、実践コーポレートガバナンス研究会代表理事、門多丈より開会のご挨拶をさせていただきます。

門多： 皆さま、お忙しい中、実践コーポレートガバナンス研究会の 10周年シンポジウムにお集まりいただきまして、ありがとうございます。

私どもは、日本の企業経営とガバナンスの改革を議論し、実践する集まりとして、10年前に発足しました。コーポレートガバナンス・コードもなく、ESG についての議論もほとんどないという状況で、われわれはこの活動をスタ

ートしました。

先日、私どもの勉強会で、渋澤健さんから、「見えない未来を信じるということが重要だ」というお話がありました。私どもも、まさに、見えない未来を信じながらここまで来たと思っています。

私どもは、一般社団法人として、現在、個人会員が 120 人いまして、緊密なネットワークを保っています。今回、ご協賛いただいています一般社団法人金融財政事情研究会様をはじめ、20 社の法人会員に支えていただいています。私どもは理事が 10 人で、月 2 回集まって、研究会の課題、われわれとしてのやるべきことを真剣に議論しています。

改めまして、私どもの活動の 3 本柱を紹介します。1 つは、勉強会、情報発信です。今月で 107 回目となる月例勉強会を行いました。多様な講師の方に、企業経営、ガバナンスのみならず、科学技術、文化、グローバル、世界の大きな流れ等の様々なテーマで勉強会を行っていきまして、毎回 80 人程度のメンバーに参加いただいています。

さらに、私どもの会員で、社外役員、取締役や監査役で現場に着任している方々がフィードバックのために集まって、情報交換、意見交換する会員限定の勉強会も行っています。

2 番目の柱は、企業向けの研修です。既に新聞にも出ていますけれども、イオングループの監査役アカデミーのプログラムの運営を受託しています。今年で 6 年目となりますが、イオングループの企業の監査役、経営を担う人材を 1 年かけて教育するという研修プログラムを受託しています。

さらに、3 本目の柱ですが、企業向けの社外役員の紹介です。私どもは、先ほど申し上げました 120 人の会員とそのネットワークで、非常に多様で有能な人材のプールを持っています。その中でいろいろな企業に紹介しているわけですけれども、私どもの何よりの喜びは、私どもが紹介した社外取締役や監査役の方が、現実には、取締役・監査役会で大いに活躍されていることです。

この研究会を始めたきっかけは、まさに、個人的なことなのですが、マスターズトラスト会計社の川村先生から、安田専務理事を紹介されて、2 人で、まずは社外監査役の勉強会を始めようと思ったのが 11 年前で、それを核に研究会をスタートしました。

私自身がなぜこの研究会をやろうと思ったかというのには、3 つのきっかけと想いがあります。1 つは、私どもは長年、企業投資等を行っていました。その経験とアメリカの公的年金の人たちとの議論の中で、投資とガバナンスというのは表裏一体、車の両輪、という意味でのガバナンスについての問題意識を深めました。

私は、12 年前に三菱商事を辞めまして、偶然、長野の八十二銀行から社外監査役ということで声が掛かりました。私はノンバンク出身だったわけですが、銀行の取締役会に座って、いろいろ、自分なりに考えることを議論したり、経験すると、やはり、異業種の中でも社外というのはいろいろ貢献できる面があるのではないかと自分自身で思ったのが、2 番目の動機です。

3 番目の動機は、他のどの会社でも同じことだと思うのですが、例えば、私の三菱商事の後輩を見ると、海外事業、

子会社投資、経営企画、営業の現場や新規事業に携わったり、そういう多様な経験をしている後輩がいるわけですが、その方たちが会社を辞めて、次にもう一回頑張っていたらいいなと思ったからです。

そのような思いで私どもは研究会をつくりまして、現在、申し上げたように、個人会員の緊密なネットワークを形成しています。

ギリシャ哲学で、実践知という言葉があります。フロネーシスという言葉であり、その意味は、「倫理的志向をもって、根源的に社会の課題を考え、現場で柔軟に解決方法を探求する知性」という定義だそうです。実践コーポレートガバナンス研究会の会員が、こういう形で社外取締役や社外監査役になり、議論をしたり、情報発信をすることは、私としては、まさに、実践知を現実に実現、実行していると思っています。

今回の10周年を記念しまして、さらに頑張っていくつもりですので、よろしくお願いします。ありがとうございました。